

ささばち：ホソアシナガバチとヒメホソアシナガバチ

じばち：ジガバチ等単独で地中に営巣するハチ類

じみつ：ニホンバチ（在来種ミツバチ）

どんごろ：ケブカハナバチとクマバチ

つちばち：マメコバチやトックリバチなど泥を運ぶハチ類

おみきすず：スズメバチ類（くろにか、あかにか）の越冬雌がつくる初期の徳利状の巣

にかのす：上記のものが球形になった巣

あつさぎ：フタモンアシナガバチ（一宮町）

あるいはアシナガバチ類全体のことも知れない。

なお、千種町あたりでは、スズメバチ類の幼虫を食用にする。また、“あしだれ”は足垂れ、“あつさぎ”は足下の意味らしい。

終りに、これらの方言を御紹介頂いた池田和生氏に深く感謝の意を表する。

神戸市山田町の蛾（続報Ⅱ）

松 本 健 嗣

採品の分類整理がまだ出来ないので、今回も相変らず陳腐な手法であるが若干の種を披露させて頂く。

1. ヒトスジオオメイガ *Schoenobius lineatus* Butler

1979年7月30日 1 ex. 北区山田町字藍那

1983年7月8日 3 exs. 同 上

三化メイ虫イッテンオオメイガと同属であるが、藍那では7月に水田上でよく見かける。局地的なものだと言う。

2. サビイロナミシヤク *Pseudocollix hyperythra* Hampson

1983年5月23日 1 ♀ 字藍那

暖国の照葉樹林のものらしい。

3. イチゴキリガ *Orbona fragariae pallidior* Warren

1983年4月12日 1 ♂ 字藍那

成虫越冬種。西日本では余りとれないらしい。

4. カマフリンガ *Macrochthonia fervens* Butler

1981年9月27日 1♂ 字藍那

1983年8月7日 1♀ 北区ひよどり台町

1983年8月11日 1♂ 同上

別に珍しい種ではないが新興住宅ひよどり台町では街路樹のケヤキに幼虫がついているのをよく見る。

5. アサマキシタバ *Catocala streckeri* Staudinger

1983年5月28日 2♂♂ 字藍那及び坂本

日本産 *Catocala* 属 29種は大概暑い盛りに出るものだが、本種のみは新緑の候の出現する。

1 ex. は小学校近くの灯火下で、他の 1 ex. は丹生山へのハイキングコースのコナラ林で採集したものである。小生本種を 1964年5月30日少し東方の宇原野初田川で採集して以来 20年目の再会であった。アムール系の種で西日本では他に滋賀、大阪、岡山、香川の諸府県より夫々ヶ所産地が知られている。

6. ネグロアツバ *Zanclognatha nigrobasalis* Yamamoto et Sugi

1983年7月6日 2♂♂ 字藍側

1955年山本義丸先生が杉繁郎氏と共著で氷上郡柏原町で飼育により得られた標本をタイプとして記載された種である。蛾類通信 No. 70 (1972) には西は柏原町から東は栃木・茨城県迄 20ヶ所の既知産地が記されている。藍那は兵庫県では 2番目の産地ではないだろうか。幼虫は藓を食べ、採集場所は自動車道をくぐる地下道内なので、同所にやたらに多いホシオビコゲ同様そこで発生したものかもしれない。

神戸市周辺の蜻蛉目付記

松本健嗣

本誌 Vol. 10 No. 2 (1982) で神戸市周辺のトンボについて述べたが、これは過去にいたものであるが、当然語るべき重要な種を一つ逸したことに気付いた。またヤンマの産卵習性の説明に明らか